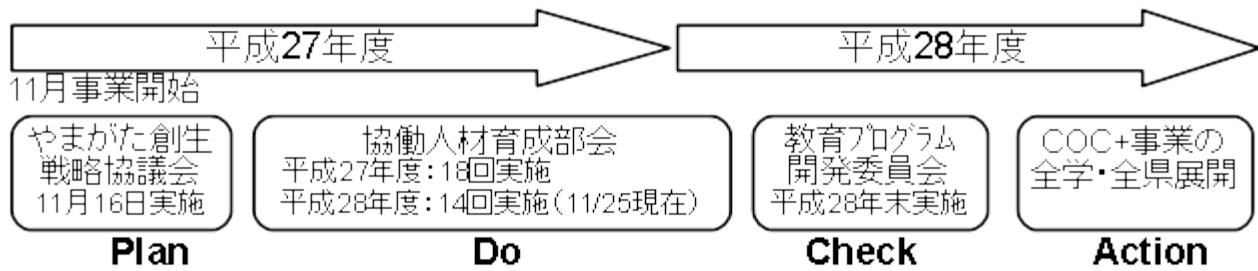


## 進捗状況の概要

### 【事業の進捗状況】



本事業は、全学・全県を挙げて、人材育成と地方創生を目指すものである。そのために、全県の代表者が集まるやまがた創生戦略協議会（平成27年11月16日実施）で事業計画を立て、教育課題の収集・解決策の提案（FD・SDを兼ねる）、学生と地域のマッチング、地方創生事業の展開などを目的とした協働人材育成部会を県内各地で実施してきた。明らかとなった課題、課題を解決するグッドプラクティス事例を教育プログラム開発委員会（平成28年末に実施予定）に上げ、山形大学の教育改革、山形全体の人材育成・地方創生事業へ反映していく。

### 【コーディネーターの配置】



山形は大きく4地域（村山・置賜・庄内・最上）に分けられる。地域によって課題が異なる。そこで各地域を担当するコーディネーターが配置され、それぞれが事業の円滑な推進を担当している

### 【地方創生事業との連携】

COC+事業の目標を達成するためには、地方公共団体が展開する地方創生事業との連携が不可欠である。県内各地で、COC+と連携した地方創生事業が展開している。

- 自然・文化と最先端科学技術が融合するまちづくり事業（平成27年度飯豊町/山形大学）
- 市民コミュニティ施設「ワーキングスペース UNDERBAR」の設置・運営（平成27年度酒田市/東北公益文科大学）

### 【地域理解授業の促進と成果】

山形県は公共交通網が整備されていない。地域を理解するためのPBL教育のためには、借り上げバス・タクシーなどによる学生の移動が不可欠である。COC+事業予算を活用して、以下のように学生の地域理解授業を促進している。

	実施件数/参加人数（山形大学）	実施件数/参加人数（参加大学）
平成27年度	31件/443人	15件/125人
平成28年度(11/25現在)	126件/3930人	45件/475人

地域と連携した授業の成果として以下のようなものが挙がってきている。

- 学生提案による観光商品の提案（HIS社と連携/上山市）
- 学生による市の振興計画ダイジェスト版作成（上山市）
- 学生による地域資源マップと活性化プランの作成（長井市）

### 【今後の課題・実施事項】

- 山形大学および参加大学で教育プログラムを開発し、グッドプラクティスを全学・全県的に展開する。そのためのカリキュラム改革を教育プログラム開発委員会で実施していく。
- 県の教育委員会と連携して、県内高校生の県内大学への進学を促進していく。奨学基金の設置を目指す。
- 事業の継続のために、自治体・企業等と連携して寄附講座の設置を目指す。
- 地元就職率10%増を目指す（山形大学の実績：平成26年度25%→平成27年度26.3%）

（COC+大学名：山形大学、事業名：協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業）